

会議録（概要）

会議名称	令和5年度 第2回愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開催日時	令和5年11月16日（木） 午前9時30分から午前11時40分まで
開催場所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室
出席者	別紙のとおり
欠席者	加藤大典委員、大橋秀樹委員
公開・非公開	公開
傍聴人の数	0人
審議事項等	<ul style="list-style-type: none"> ●審議事項 （1）令和5年度第1回愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 書面会議確認事項について （2）第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について ●報告事項 （1）まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関する寄附実績について ●その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 令和5年度第1回愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進委員会書面会議確認事項について ・資料2 第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況 について ・資料3-1 まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関する 寄附実績について ・資料3-2 企業版ふるさと納税概要 ・推進委員会配席図 ・委員名簿 ・訂正資料 ・当日配布資料（総合戦略説明資料） ・第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略冊子
審議経過	別紙のとおり

愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員

役 職	氏 名	備 考
会 長	岩崎 恭典	
副 会 長	千頭 聡	
	大坪 祐紀	黒田 英伸（代理出席）
	日比野 好晃	
	山田 豊	
	安田 清時	
	水野 善弘	
	加藤 憲治	
	川合 良司	
	丹後 茂	
	加藤 大典	欠 席
	山田 慎太郎	松本 宗平（代理出席）
	大橋 秀樹	欠 席
	水野 秀俊	
	青木 啓	
	加藤 幸一	
	伊藤 里海	
	土赤 摂津子	
	恒藤 貴哉	
	横井 敏彦	
	神田 善郎	

職務のために出席した職員

役 職	氏 名	備 考
市 長	日永 貴章	
副 市 長	鈴木 睦	
子育て支援課長	水野 裕公	
産業振興課長	清水 直樹	
都市計画課長	佐藤 政樹	
企業誘致課長	藤澤 寿章	
学校教育課長	猪飼 政和	
スポーツ課長	長谷川 努	
健康推進課長	服部 芳樹	
社会福祉課長	伊藤 義幸	
市 民 課 長	橋本 創	加藤 勉（代理出席）
市民協働課長	丹羽 久美	
総 務 課 長	青木 万亀雄	
財 政 課 長	堀田 毅	

事務局

役 職	氏 名	備 考
企画政策部長	西川 稔	
企画政策部参事	澤井 勇一郎	
企画政策部経営企画課長	井戸田 悦孝	
企画政策部経営企画課課長補佐	若松 孝志	
企画政策部経営企画課主任	東山 祐佳	
企画政策部経営企画課主任	服部 陽介	

審議経過

発言者	内容（概要）
市長	1. あいさつ
各委員	2. 自己紹介
	(お名前と一言挨拶)
事務局	3. 会長の選任について
	会長には、委員の互選により岩崎委員を選任。
	(交通機関の遅延により会長不在のため、事務局がこの後進行。副会長の互選は、会長到着後に改めて行うこととする。)
	4. 会議録署名委員の指名
	議事録署名委員：日比野好晃委員
	5. 審議事項
	(1) 令和5年度第1回愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会書面会議確認事項について
事務局	(資料1について説明)
	(2) 第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
事務局	(資料2について説明)
委員	企業誘致の魅力は税制優遇だが、愛西市の優遇制度は。また、愛西市と愛知県は企業誘致で連携しているか。
	施策 3-1 婚活活動のKPIは「事業回数」よりも、「参加人数」の方が良いのではないか。
職員	企業立地促進条例、立地促進奨励金として、工業団地へ立地した企業に対し、3か年分の建物、償却資産の固定資産税相当分を奨励金として交付する制度がある。
	また、市内在住者を雇用した企業に対して、1年間継続雇用した場合に、1人当たり15万円、雇用促進奨励金として、企業へ交付している。
	各自治体は、愛知県の企業庁と連携し、企業誘致を進めている。市が工業団地を立地できる地区計画の整備、許可、関係機関等との協議を進め、企業立地に採算性が認められれば、県企業庁が用地買収、工業団地の造成工事等を行う。企業を呼び込めれば、市には固定資産税等、税収が入ることになる。

事務局	<p>婚活について、計画・改定に合わせ、回数ではなく人数での表示を検討する。</p>
委員	<p>施策 1-1 の指標、工業団地内新規企業における新規地元雇用者数は、令和 4 年度では「累積値 7 名」だが、令和 7 年度の目標値は 120 名と、現時点では大幅に未達である。P D C A を正しく回してこの目標値を設定しているのか。1 度立てた目標値は変更しないのか。</p> <p>施策 2-1、ふるさと応援寄附者数については、令和 7 年度の目標値に比べ、令和 4 年度は実績値が大きく上回っている。この戦略は、守りの施策と攻めの施策に分かれており、魅力の発信や観光、寄附は攻めの事業・施策になる。ぜひ令和 7 年度目標値を見直し、しっかりと上げて狙っていく数値を示していただきたい。</p>
職員	<p>令和 7 年度の目標値 120 人は令和元年度に設定した数である。その時は、まだ企業立地が建設されておらず、市として期待を基準に、令和 7 年度目標値を設定した。結果として、令和 4 年度では 7 人である。</p> <p>戦略改訂後の目標値は、第 2 の工業団地の実数も含め、現実的な数字になるものと考えている。</p> <p>なお、市内の雇用者ではないが、正規雇用は南河田だけで約 100 人、パート従業員約 300 人、計 400 人ほどの雇用を生んだ。</p>
事務局	<p>本計画は、令和 7 年度までの計画である。目標値を早く超えて、さらに目標値を上げたい思いもあるが、最終的な評価をする際に、目標値が達成できなかったという評価も考えられるため、この計画では、当初示している数値のままとする。</p> <p>ただし、目標値を超えた場合は、担当課でさらに上回る目標値を設定し、努力を続ける考えである。</p>
委員	<p>施策 1-3、愛西市の特徴を活かした農業振興について。</p> <p>草生え農地を減らすには、家庭菜園や貸農園で農業を活用するような施策を農協と一緒にやると良い。</p> <p>兼業農家に対する活性化として、産直販売などへの奨励や農家経営に力を入れ、農協から案内いただくという施策である。</p> <p>もう 1 つ、ドローンの活用について。ドローンはほとんどオペレーターに依存しており、その辺りが非常に冷たいと感じる。</p> <p>市は農協との連携、アライアンス（企業間連携）を取り、現場へもう少し手厚い展開があると、非常にやる気が出ると考えている。</p>
職員	<p>今後、進められるところは進め、いただいたご意見は参考にさせていただきます。</p>

委員	<p>新規就農は、ある程度の年齢までの方が対象である。途中で会社勤めを辞めて戻ってきた人や、自分の家の跡を継ぐために戻って来た人に対する、補助や支援にも力を入れていただきたい。</p> <p>愛西市は6割が農地であり、守っていく必要がある。今年も2校ほど小学校で「愛西市にとっての農業」をテーマに出前授業を開催している。興味喚起としてとても良い取組なので、続けていただきたい。</p>
職員	<p>新規就農に対しては、市単独で100万円の補助を実施している。いただいたご意見は参考にさせていただく。</p> <p>農業、農地を守るため、PR等の対応をとっていきたい。</p>
委員	<p>(資料2) 施策1-1 新規企業の誘致について。企業を丸ごと誘致することは、相当なハードルがあると考えている。取組項目の「第二創業者に対して経営課題解決の提案を行った」、ここが大きな突破点だと考えている。</p> <p>企業を丸々誘致することに加え、市内の企業が新規事業を立ち上げるための支援も、課題である。今後の方向性の1つとして考えていただきたい。</p> <p>仮に市内に企業が1万社いるとして、事業を1つ追加するということであれば、1.1倍の事業規模になる。市内の収益にも繋がる策として、1つあり得ると考える。</p>
事務局	<p>企業誘致ばかりでなく、市内の企業に対しても、新しい方策として市全体の活性化に繋がる取組が必要と考えている。貴重なご意見として伺う。</p>
委員	<p>海部農林水産事務所管内の新規就農者は非常に少なくなっており、44歳以下の青年農業者の数も年々減ってきている状況である。県下全体で同じように減少傾向であるが、特にこの海部管内は減少傾向が強い。全く農地を持たずに入ってくる新規参入者や、親元就農も含め、新規就農者を確保することが課題である。</p> <p>(岩崎委員入室・以後の議事進行は岩崎会長が行う。)</p> <p>3. 副会長の選任について ※副会長には、委員の推選により千頭委員を選任。</p> <p>5. 審議事項(2) 続き</p>
委員	<p>施策1-1「新規企業の誘致」の起業、第二創業に対する支援について。市内にインキュベーターをぜひ1箇所作っていただきたい。人口減少</p>

議長	<p>により、学校の統廃合が進めば、廃校舎が活用できるようになる。事業を立ち上げる方々への相談に銀行、郵便局、市役所が入る体制をとり、事業立ち上げをワンストップで応援していただきたい。それにより人や技術の集積ができるので、ぜひお願いしたい。</p> <p>小学校等を利用して、創業支援時にワンストップで受けられるコンサルテーションをする施設を作ることについては、色々な所で試みがされているので、ぜひ取り組んでいただければと思う。</p>
委員	<p>施策 1-1 の指標、地元雇用者数について。企業が進出するにあたって、交通利便性のニーズは非常に高い。そういった中で、実際に市内で稼働している工場の状況を見ると、近隣の市町村と近いことが、地元雇用者数の実績が少ない要因の 1 つであると考えますが、この要因を調べる必要がある。企業の求人対象と、地元住民とのミスマッチが起きているのか。そもそも働く人がいないのであれば、働きたい人を呼び込んで、住んでいただく形になる。住宅供給や住宅地の開発も含めて一体的に議論する必要がある。</p> <p>住宅供給として施策 4-2 については、空き家対策がある。放置された空き家を行政が需要と供給をうまくマッチングしたり、危険な空き家の取壊しを支援したりするなど、うまく絡み合わせながら進めれば、いくつかの施策もつながって K P I も進捗する。</p> <p>インキュベーター施設に関連して、スタートアップが非常に注目を浴びている。利用する者は、大都市を求めている。自分たちで起業する方を施設へ迎えることもある一方、全国で取り組んでいる自治体があるので、一緒になって実証や実装、自動運転などスタートアップに取り組む企業を呼び込むことで、雇用の創出や、新しい技術を取り入れることもできる。検討いただきたい。</p>
議長	<p>地元雇用が少ない原因をどう分析しているか。それに対して、例えば空き家をリノベして貸し出すとか、他の施策と組み合わせた地元定着を何か考えられないかという意見だがどうか。</p>
職員	<p>地元雇用がなかなか伸びないことに関して、工業団地の分析をしている。工業団地の 5 企業における正規雇用者の大半は、名古屋やその周辺からの通勤者である。新規地元雇用者の 7 人は、愛西市の方を優先して新たに採用された方と、元々従業員で市内へ定住された方であり、1 つの企業の取組である。パート従業員が約 300 人いるが、うち 1/3~1/2 が愛西市の方の雇用である。現在、パートタイム従業員の正社員登用を働きかけているところ。</p>
議長	<p>それだけ名古屋と交通至便であれば、逆に住宅を用意すれば名古屋へ</p>

委員	<p>通勤するために移って来る人もいるのではないか。人口をできるだけ減らさないという観点からは、住宅のリノベは有効かもしれない。</p> <p>いなべ市は地方自治体として、一気に工業団地化が進んで雇用が増えた。いなべ市で工業団地化が進んだのは、物流効率を考え、近場でどう集約して物を収めるかが大きな課題になったからである。</p> <p>この近辺で一番大きな会社はトヨタ車体である。物流費削減から集約物流が始まれば、地の利を考えるとトヨタ車体にとっても愛西市は非常に魅力的だと思う。</p> <p>E Vへの転換期であり、トヨタ車体の自動車部品メーカーや二次下請けの子会社の進出が見込まれる。誘致に進めるのは、1つのチャンスであり、検討の余地がある。</p> <p>次に、愛西市は思っている以上に外国人が多くて驚いた。市内の外国人の方々はこういった方が多いのか。</p>
議長	<p>前段の話は、これから企業誘致する際に、集約物流や、E Vへの転換など、時代の状況を先読みして、弥富インターも近い地の利を活かした企業誘致を進めるべきだという意見。参考にしていきたい。</p>
職員	<p>外国人人口は増加している。留学生という形ではなく、在留カードを取得して中長期在留者という形で住民登録をされ、企業に勤めている方が多い。</p> <p>技能実習生が主であり、農業が主ではないと感じている。在留資格があるため、その面で考えると、工業系の労働者の方が多いと考えている。</p>
委員	<p>多くの指標があるが、指標によってかなり性格が違う。予算を投じれば直ぐに数値が上がるような、直接的なアウトプット指標がある一方で、直ぐに数値を上げることが難しいアウトカムの指標もある。</p> <p>施策 1-1 新規就農者数の指標について。愛知県でも新規就農希望者がいても、農地が無い状況が多くある。この指標を増やすためには、希望者を増やしつつ、提供できる農地を用意することをセットにすることで、結果が表れてくると考える。</p> <p>施策 1-3 地場産品に「ぐるぐる産物のラベルを貼った」、これも農家の立場からすると、売れなければラベルを作っても意味が無いので、愛西市民に地場産の農産物を少し高くても買ってもらえるか、という話とセットでこの指標が生きてくる。</p> <p>施策 3-2 の指標に「ファミリーサポートセンター会員数」とあるが、提供会員と利用件数とのバランスが大事であり、また潜在的なニーズや利用者を掘り起こす施策も大事となってくる。</p> <p>右側に主な取組が書かれているが、可能ならば、それぞれのK P Iにぶら下がっている取組や、指標を上げるための戦略的な取組について、</p>

	<p>もう少し見えるようにしていただきたい。そうすれば、数値だけの議論ではなく、中身の議論がしやすくなると思う。</p> <p>次に、施策 4-2 の指標「公共施設の延べ床面積」について。日本中の自治体が数十年かけて延床面積を減らさざるを得ず、愛西市も長期の公共施設の再編計画に基づいてこの指標があると思うが、この 1 年で増えた、減ったという性格の指標ではなく、少なくとも 10~30 年単位の指標だと考えるので、これを戦略に載せてしまうと、過渡的な増減によって誤解を招くおそれがある。</p> <p>次に、施策 3-4 の指標、子どもの話である。将来の夢や目標を持っている生徒の割合が 76 パーセント、他市と比べても衝撃的に低いと私は考える。夢が無い児童・生徒が 3 分の 1 もいることは大問題であり、この数値をどうやって上げるかを検討する際に、夢・希望を持っていない児童や、学校が楽しいと思っていない生徒について分析し、その成果が戦略や K P I で示されれば議論がしやすいと考える。</p> <p>今年度から担当課には、数字が伸びない要因や課題の洗い出し、その課題に対してどうしたら良いのかという視点を持って取り組むようお願いをしている。</p> <p>個々の施策について、すぐに取り組めるものと、課題を解決するまでにすぐに出来ないものがあるが、K P I が伸びない理由について中身の議論にもっていく必要があると考えている。</p> <p>今後、各施策を結び付ける視点を踏まえた上で、課題に向き合っていきたいと考えている。</p> <p>将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合は、この計画策定時に行ったアンケートによる指標であり、毎年度指標を把握していないので、計画期間中の分析として指標が表れづらいが、こうした指標もあるとご理解いただきたい。担当課としても、そういった点を踏まえて、小中学校の授業展開等を行っているものと考えている。</p> <p>まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画は令和 7 年度までの短期間の計画で見ている。一方、市全体としては公共施設総合管理計画で、30 年後の公共施設の面積を現在から 30 パーセント減らす目標に設定している。事務局としては、公共施設の削減に向けた取組を知っていただく目的があって掲載すべきと判断した。</p>
事務局	
議長	<p>来年度以降、取組事項のところには、具体的に指標を上げていくような取組を入れるよう検討いただきたい。</p>
職員	<p>愛西市には小学校が 12 校、中学校が 6 校あり、それぞれ特色ある学校運営を進めている。子供たちの環境等を確認しながら将来の夢や目標を持てるよう、学校運営に努めていきたい。</p>

委員	<p>現在、愛西市の中でどれくらい不登校の生徒がいて、勉強を苦しんでいるのか。</p> <p>夏の猛暑の中で、中学校、特に体力の無い小学生に関しては、重篤な事態に陥る可能性もあるが、熱中症対策について、対策は考えているか。</p>
職員	<p>愛西市内の小中学校においても不登校傾向、あるいは不登校の児童生徒を確認している。愛西市の対策は、適応指導教室、いわゆる教育支援センターを愛西市2か所設置している。近隣で、2か所設置している自治体はあまり無い。支援センターと学校が連携をして不登校の子どもたちの相談等に乗っており、進学に関しても、できる限り保護者あるいは本人と相談しながら対応をしている。</p> <p>熱中症、暑さ対策に関しては、小中学校の普通教室のエアコン設置等は完了している。体育館については、立田中学校の1校に設置があるが、他の学校の体育館については、今後検討が必要と考えている。普通教室以外の音楽室、理科室等特別教室については、順次進めていきたいと考えている。</p>
議長	<p>熱中症対策について特に体育館は、なかなか進んでいないが、いざという時に避難所にもなるため、欲しいところである。</p>
委員	<p>愛西市全体としては人口減少傾向であるが、本校近くの淵高地区は、住宅がここ数年どんどん建ってきており、施策2-2住宅地開発サポートが進んでいるものと感じている。</p> <p>市内の中でも人口バランスが変わってきていると感じており、施策2-3巡回バスについて、令和2年4月にルート等が改正されてから3年ほど経っており、ルートの見直しや、バス本数の適正化を考えているのか。</p> <p>次に、本校のすぐ目の前にある公園と本校の体育館を利用して、市民の皆さんとコミュニケーションを行うことができるようなプロジェクトマップをやってみたらどうかと考えている。</p> <p>官学連携で、市の居住価値や愛西市の魅力を発信する計画があれば、本校として協力していきたい。</p>
職員	<p>令和2年4月に巡回バスルートを是正した。その後、コロナ禍のために利用人数が大きく減っている状況である。巡回バスの検討委員会を開催しており、この9月にはアンケートを実施した。今後の進捗状況によって、改正を進めたいと考えている。</p>
職員	<p>高校との官学連携事業については、愛西工科高校、佐屋高校、清林館高校とここ数年、高校生の意見、発想を取り入れた形で事業を行っている。事業実施にあたっては、協賛金を募るなど、お互い協力し合いなが</p>

委員	<p>ら、官民連携事業を続けていきたいと考えている。</p> <p>施策 2-1 の指標、ふるさと納税の申込みが順調に伸びてきている。令和 4 年度の実績は 3,500 件に対して、目標が 700 件である。目標値は増やしていくべき数字だと考える。</p> <p>次に、道の駅について。今年から道の駅周辺整備事業・再整備計画がスタートし令和 8 年完成予定である。非常に期待をしている。全体は西地区と東区の 2 つのゾーンに分かれているが、両ゾーンのコンセプトがはっきりしない。コンセプトについて伺う。</p>
職員	<p>令和 7 年度の目標値は、策定時の目標値であり、令和 4 年度について、人数でいけば目標値をはるかに超えている状況である。</p> <p>これは、策定後にふるさと納税の委託業者と契約した結果、大変大きな伸びとなった。金額で比較しても、令和 3 年度は 400 万円ほどであった寄附金実績が、令和 4 年度では 1 億円と、非常に大きな伸びを見せている。</p> <p>ふるさと納税は、自主財源確保の側面と、愛西市を全国の方に知っていただくシティプロモーションの側面も持っているので、課独自で目標を設定し、どんどん推進していきたいと考えている。</p>
職員	<p>西側の道の駅については、道の駅利用者への配慮として、24 時間トイレの機能強化と駐車場の増設による強化である。合わせて、地域振興施設の農産物直売所の拡大による強化である。</p> <p>川を挟んだ東側については、道の駅の拡張ではなく、新たな都市公園の整備となる。都市公園の魅力発信のコンセプトは、愛西市の特産農作物の魅力を発信していく、花はす田を見ていただく、飲食施設で食べていただく、収穫体験イベント等で体験していただく等、「見て、触れて、感じていただける」都市公園を目指すものである。</p>
委員	<p>来場者の方に PR し、理解いただくため、意匠図や鳥瞰図等の掲示を考えていただくと良いと思う。</p>
議長	<p>指標のあり方等ご意見をいただいた。この総合戦略の基本目標と、それに基づく事業進捗状況について確認を行った。議事については以上とする。</p>
事務局	<p>6. 報告事項</p> <p>(1) まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関する寄附実績について(資料 3 の 1、3 の 2 について説明)</p>

事務局	<p>7. その他</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の令和4年度事業については、今回の委員会の終了後、市のホームページにて公表する。</p> <p>(終 了)</p>
-----	--